



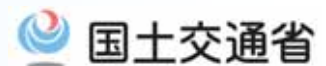
秋田港シーアンドレール構想 パイロット事業

平成22年1月22日

国土交通省
東北地方整備局
秋田港湾事務所



パイロット事業の概要・目的



1. 概要

- ・秋田港の既存施設(隣接する大浜コンテナヤード及び秋田北港駅)を活用したシーアンドレール輸送による国際海上コンテナ貨物の輸送実験
- ・本年2月より3月までの間、荷主の協力を得て実貨物を実験的に輸出入する

2. 目的

既存施設を活用して、秋田港でのシーアンドレール輸送の暫定供用を図る



パイロット事業実施の経緯

秋田港シーアンドレール構想の推進を図るためには、既存施設を活用したパイロット事業の実施が必要である、と協議会が提言

官民一体で、パイロット事業に関する検討

第二回
秋田港シーアンドレール
構想推進協議会
H21. 2. 6

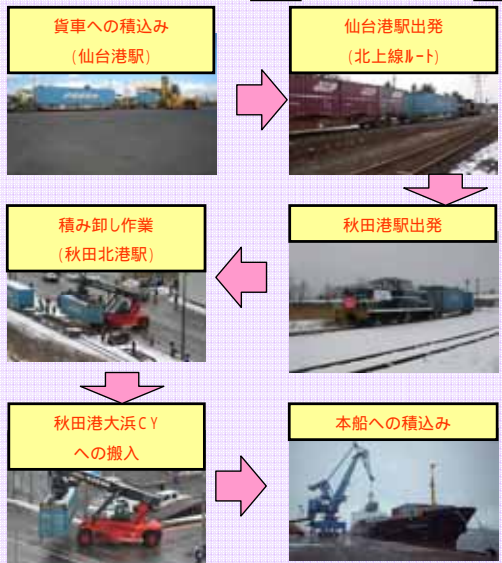
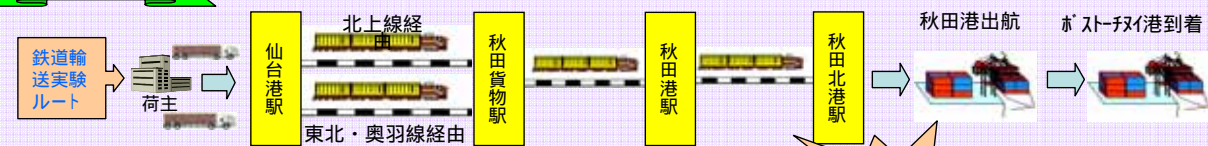


国土交通省における、環日本海港湾物流のシームレス化に向けた取り組み

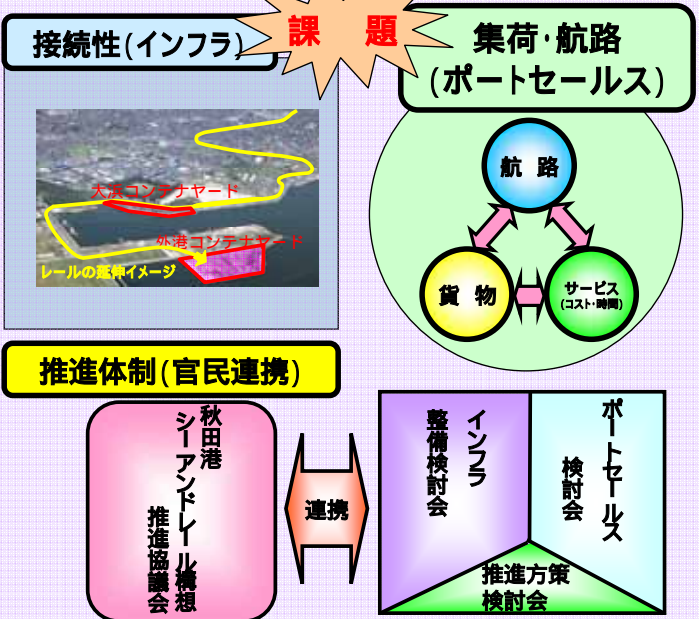
秋田港を利用した環日本海複合一貫輸送パイロット事業の実施の決定(予算化)

H19年度 実証実験の概要と課題

概要



実験用にコンテナ貨物を調達
日露航路の秋田港への臨時寄港



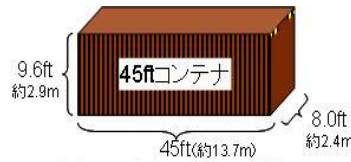
仮設積替ヤードの造成



実貨物の輸送



45フィートコンテナでの輸送



標準40フィートコンテナに比べて容積が約27%アップ

サイドオープンコンテナでの輸送



H21年度 輸送実験 【仮設積替ヤード】

- ・秋田北港駅に仮設の積替ヤードを整備
- ・仮設積替ヤードと大浜コンテナヤードとの間は、トレーラー輸送

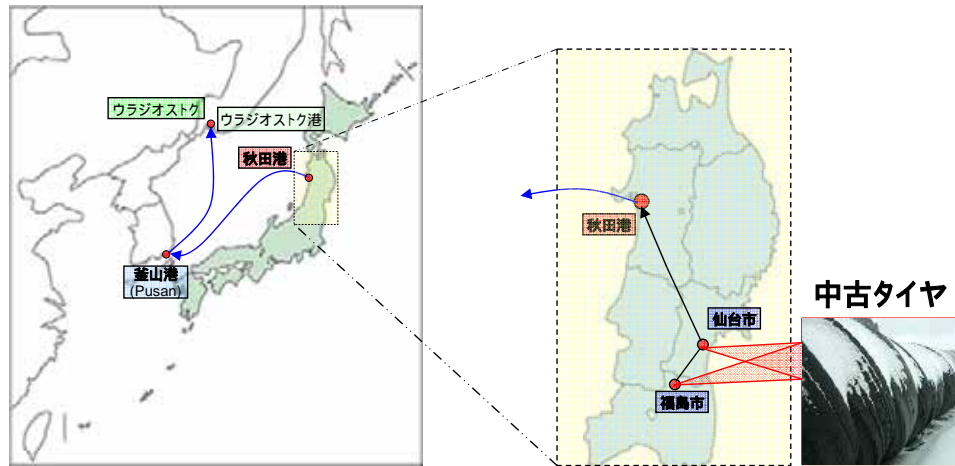


H21年度 輸送実験 【実貨物】

[協力:(株)サンパワー:中古タイヤ]



想定スケジュール(空コンテナの回送を含む)
第1回 平成22年2月上旬 / 第2回 平成22年3月上旬

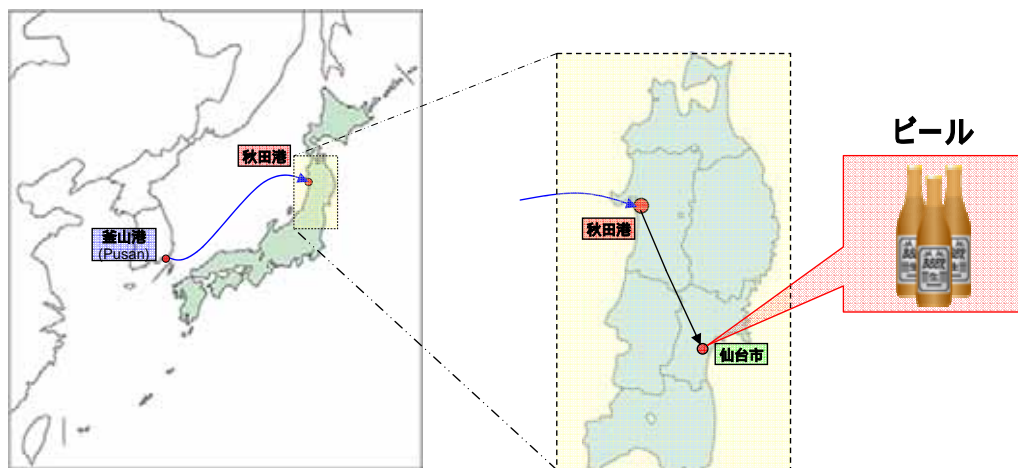


H21年度 輸送実験 【実貨物】

[協力:(株)やまや:ビール]



想定スケジュール(空コンテナの回送を含む)
第1回 平成22年2月下旬 / 第2回 平成22年3月中旬

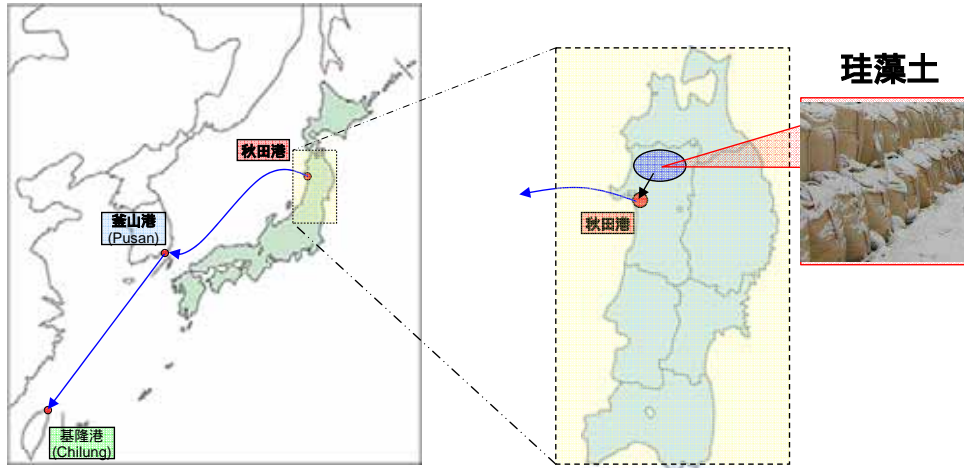


H21年度 輸送実験 【実貨物】

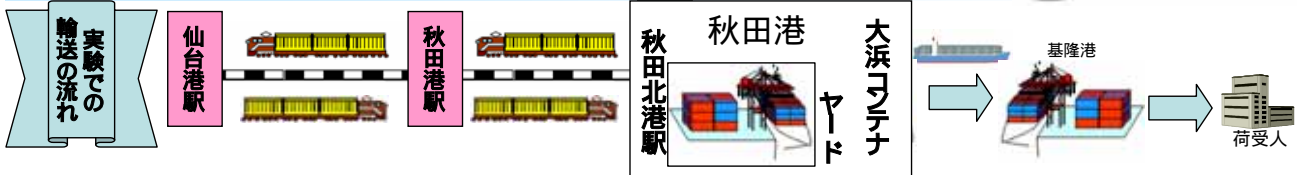
[協力: 中央シリカ(株): 珪藻土]



想定スケジュール(空コンテナの回送を含む)
 第1回 平成22年2月上旬 / 第2回 平成22年3月上旬

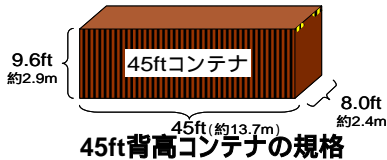


H21年度 輸送実験 【45ftコンテナ】



メリット

- 40ftコンテナより、
- ・1.5m長い
- ・容積が約27%大きい



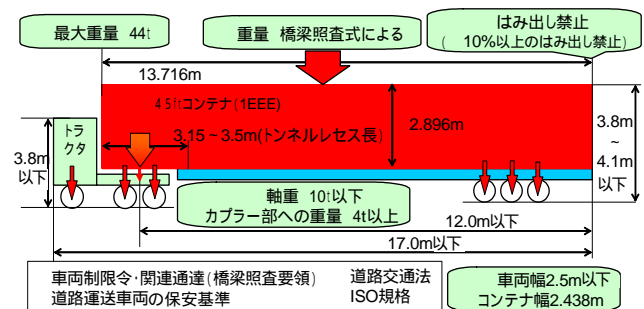
課題

45ftコンテナを鉄道輸送するための
 限界調査が必要(確認中)。

制約

- ・国内では、関係法令により45ftコンテナのトレーラーは道路を走行できない

道路法、道路交通法、道路運送車両法



コンテナヤードと鉄道駅の近接性という秋田港の特異性を
 活かして45ftコンテナの輸出入拠点化を図る

サイドオープンコンテナ(国際海上コンテナ)
の導入(協力:日本大昭和板紙(株))

- ・貨車積み状態で、コンテナへの積卸しが可能
- ・構内引込線を保有する荷主の輸送コスト削減に寄与する可能性あり



今回の実験をきっかけとして、サイドオープンコンテナの利活用が進めば、シーアンドレール輸送の利用促進が期待できる

パイロット事業の実施体制

実施:国土交通省 東北地方整備局

受託:日本通運秋田支店

主な協力機関:秋田県、秋田市、JR貨物東北支社、秋田臨海鉄道、
仙台臨海鉄道、秋田海陸運送、秋田臨港警察署、
秋田運輸支局、秋田船川税関支署、秋田商工会議所、他

主な協力荷主:日本大昭和板紙、サンパワー、やまや、中央シリカ、他

